

<唐丹希望基金継続へのメッセージ>

松下正枝（群馬県）

心からしぼる様な9年間の想いのつまったお手紙…。様々な喜びや苦しみを積み重ねながら、突っ走ってこられた日々…。本当に心からお疲れ様！と、最後の唐丹便りを涙と鼻水で、くしゃくしゃになりながら、隅から隅まで丁寧に読ませていただきました。私など、形ばかりの協力しか出来ず、お恥ずかしい次第です。なかなか手紙が書けず、書いては破り、書いては破りして今頃になってしまいました。

江川様の文章に「最後の教育とは大学に合格させ、上場企業に入社させる事ではなく、生徒が楽しく豊かで幸せな人生を送れるように自立させる事を目的にした行為であると思います。唐丹基金の教育的役割の大きさに驚いています。感謝！」と結ばれており、本当にそうだな～と心から実感しました。ひよんな事からご縁が出来、少しでも関わらせて戴いた事に感謝の思いで一杯です。大きなお仕事に一区切りをつけられ、まだまだ後始末や今後のことで休む間もないかもしれませんが、少し、ゆっくり休養をとってほしいと切に思います。

道城義子（滋賀県）

ご無沙汰致しております。コロナは緊急事態宣言が解除されましたがまだまだ気が抜けないようですね。お元気でお過ごしですか？

4/1に郵便を受け取り感謝のお手紙を書かなければと思いながら、お手紙は手書きと拘って来たらこんなに時間が経ってしまってとうとう出来ずじまいになってしまいました。

郵便物の一つ一つを読みながらこの子たちに出会うことが私にとってどんなに希望になっていたかと！だからコロナが広がっても私は行く！どんなことがあっても卒業式には参加したいと決心していましたので、当事者からのキャンセルを知って本当に残念で、残念で!!

でもあそこまで蔓延したらしょうがないと諦めましたが、自分の中ではこの9年間の逢いたい、逢いたいとの思いが吹っ切れなくて、この子たちに会いたかったなと今でも思っています。

そんなことで、纏まらない自分がいて、残念でたまりませんでした。

でもようやく心が落ち着いて来ましたので、やっと思いを書くことができました。私にはDVDを見る環境が無いのでまだ見ていませんが、コロナ解放された今友達の所で見させてもらえますのでまだ楽しみが待っています。

一人一人の文章に涙させられました。大きな犠牲を受けたこの子たちがこんなにも希望と感謝に溢れている姿に接して私の方こそ心から感謝します。私に喜びを与えてくださり、深く人を愛することの喜びを体験させていただき、本当に感謝以外ありません。このことを具体化してくださった高館様に大きな感謝と拍手を致します。本当に有難うございました。

4月からはもう送金していませんがもっと続けさせていただきたいですね!!□ 何か考えておられますか？一度に解散となるのは寂しいですね!!□ 有難うございました♥□

伊藤富美子（群馬県）

ご無沙汰ごめん下さい。お変わりありませんか。私は、釜石、唐丹行きが中止になりまして、腰

が抜けたような感じですが、少しずつ元気になりました。新しいプロジェクトの振込口座がありましたらよろしく。岩手県はコロナ患者がゼロとの事。何が原因なのか。そのうち報じられるでしょうが…お淋しい春をお過ごしと拝察いたします。お元気でいらして下さいませ。

大澤禮子（群馬県）

「唐丹希望基金」の成功 お喜び申し上げます。

継続のためには大変なご苦勞を重ねて来られたことと拝察いたします。お陰様で思いを直接 届けて頂きました。深く感謝申し上げます。基金は今後も続けて頂けるとのこと、微力ながら元気の証として支援できればと思っています。これからもご苦勞をおかけ致しますがよろしくお願い申し上げます。

コロナ騒動、岩手県は感染者が出ておられない（8日現在）ようです。誰も感染しませんように、どうぞ お体 お大切に。

内藤恵子（愛知県）

唐丹小学校・中学校からの品々をありがとうございます。卒業式には参加できませんでしたが、来年の楽しみとして待つことにします。

高館さんにはいつもお世話かけております。これからはばらくはお世話になります。今日振込みをしました。少額ですが、そしていつまでかは分かりませんが、よろしくお願い致します。

松岡喜美子（埼玉県）

夫がこの世を後にしてからは自分のことばかりの生活に少しは役立つことがあるかと！思い巡らしていた矢先の震災でした。

そして高館さんとの巡り合わせが充実した日々となりました。途中経済的に不安になった事もありましたが高館さんのアドバイスで継続出来ました。ありがとう御座いました。まだまだ少しでもお役に立てたら人生幸せです

横山千穂子（東京都）

高館さんがどのような考えで唐丹希望基金を始めたのかを読みました。

30年以上も前に心の奥に蒔かれた小さな種が豊かに実ったのだと、卒業式の感慨にも増して私には感慨深かったです。

この9年間、いろいろな事が有ったと言うより、有り過ぎたと言う方がぴったりなのではと推察します。様々な方々とご一緒に、でも、やはり高館さんが一番沢山のご苦勞をお厭いにならなかったからこそ、紡ぐことのできた年月だったと思います。何にも代え難い貴重な時だったことでしょう。一区切りつきましたが、これからもずっと唐丹の子供たちを応援していくとおっしゃっていましたね。私も端に加えていただければと思っています。

宇田賢吉（広島県）

今後の活動にも参加させて下さい。どういう形にするかは一任します。